

中国朝鮮族の漢語教育

延辺で使用されている教科書を事例に

尹紅花(麗澤大学 言語教育研究科)

中国の人口は約13億と言われている。そのうち、92%を占めるのが漢族で、残りの8%は少数民族である。55ある少数民族は、各自自分たちの言語や文化を持っている。中国の政治システムは人民民主主義中央集権制である。国の政策を実施するためには全国で通用できる標準語、すなわち北京語の普及が不可欠である。北京語を自由に操り、高レベルの意思表示ができるということは、進路の幅が広がることを意味する。特に、近代化が進み、地域間の交流が盛んである現代にとっては、死活問題でもある。

中国朝鮮族は、192万人の人口を有している。2000年の人口統計によると、中国では13番目に多い少数民族である。朝鮮族の起源は朝鮮半島にあり、国境を越えて中国領内で生活を始めた歴史は150年近い。1949年に中華人民共和国が成立して以来、民族言語である朝鮮語と標準語である北京語の教育の間で様々な動揺を見せている。教育要綱では、漢語と朝鮮語の比率を一時間単位で考慮を重ね、細かく決めている。朝鮮族の民族教育は、朝鮮族が密集して暮らしている延辺朝鮮族自治州と、瀋陽・ハルビンなど大都市部に散在している民族学校では大きな差がある。民族教育が、その時代と社会環境に適応しないと、その存続が危機にさらされるからである。

筆者は延辺朝鮮族自治州の朝鮮族として生まれ、2000年に来日して約10年が経つ。小学校までは朝鮮語ラジオ放送・子供向け朝鮮語新聞、大人向け朝鮮語新聞雑誌が存在する環境で生活していた。朝鮮語は母語で、学校教育としての朝鮮語は小学校1年から習い始め、中国語は『漢語』という科目として小学校2年から習い始めた。1993年大学受験の時、漢語の受験範囲には古文が含まれていなかった。大学に入り、漢文の現代文小説を読み始め、古詩・近代文などには興味があっても読めない状況であった。

最近2002年に出版された朝鮮族学校の小学校の漢語教科書を入手し分析する機会を得た。小学校1年で学ぶ漢字は、書き漢字は300字を超え、それに加えて読み漢字も300字近くであった。漢族の語文教科書を調べてみたら1年で勉強する書き漢字が全部で400字であった。朝鮮族『漢語』教科書は、その形式も漢族学校の『語文』に近づいている。その構成をみると、拼音、学(識)字、漢語(語文)園地、口語交際、課文、日積月累などそっくりで、内容も似ている。従来の朝鮮族小学校教科書には入っていなかった唐詩などの古文も6編含まれている。授業中に重点をどこに置いて講義しているかは、詳しく調べてみないとわからないが、漢族とほぼ同じレベルの文章を、朝鮮族学校の学生たちが順調に吸収しているのには疑問が残る。朝鮮族学校の『漢語』も、漢族学校の『語文』も、時間割としては週5日で同じであるが、朝鮮族学校の学生は別に『朝鮮語』も習っていて、負担はかなり大きいのも現実であるからだ。漢語を漢族と同じように使用できることが、民族が生き延びる唯一の方法であることを実感した。発表者と発表者の親の世代の漢語レベルでは考えられないほどである。

80年代後半からは、テレビなどのメディアも発達し、少数民族地帯の子供たちでも幼いころから中国語に接することができ、小学校に入る前に会話能力と聴力は相当なレベルに達している。延辺の中小都市の入学前の子供に漢語で接してみたところ、みんなとスムーズに日常会話ができた。しかし、少数民族は少数民族としてのアイデンティティのなかで生きていく必要がある。なぜなら、アイデンティティがなければ個人が落ち着きをなくし、破滅しやすいからである。中国の少数民族は、漢族になってしまう憂慮は少なくとも今はないと考えられる。

本発表は、民族教育の中での漢語教育の歴史を振りかえり、現実の社会が求める漢語水準に注目し、教育改革の方向を検討したものである。教育改革の今後にも目を向け、教育を受ける側からできる、時代の波に流されることなく、言語の普遍性と教養性の理解の浸透に注目したい。また、中国の少数民族の一つである朝鮮族の漢語教育に焦点を当て、少数民族の言語教育と漢語教育の間に存在する問題点を見つけることに重点を置いている。分析の範囲となっている時期は、1949年以降から2009年現在に至るまでである。朝鮮族学校を出た様々な人々にインタビューした事例をあげ、理解を深めることにした。

【中国、少数民族、朝鮮族、漢語教育、教科書】